づくり基本条例つくりますよというのは18年度までにやりますということですかと申し上げているのです。早くしましょうとなっているのです。だから、３年間の中でも実施年度というのは変わってくるわけです。

継続事業にやめなければ、実施年度などないわけです。やめるという検討をするのだったら、実施年度出てくるのですけれども、継続しませんということになるのですけれども。

私はその辺のところをもう少しきっちりすべきではないかということを申し上げているわけです。

それはやっていくということでありますから、ぜひ先ほどのいわゆる人事制度、17年度から少しずつというお話ありましたけれど、これは私たびたび申し上げているように、いわゆるシステム、目標がきっちり明らかにして、それをきっちり評価できるようなシステムにもっていかないと、これ、失敗する可能性あるわけです。ですから、全部は連動しているのだと思うのです。一連の計画からずっと。そこをにらんで、それがその目標も市職員までおりてくるようなシステム、そしてみんなそれをもって自分の目標を抱えながら実施していくと、こういう一連のシステムでなければいけないというふうに思いますので、そういう意味で、私はこの実施計画も重要だし、そのほかいろんな計画というのは非常に重要ではないかというように思いますので、ぜひその辺のところを再度申し上げて、これからの取り組みをきちんとやっていただくようにお願いいたしまして、時間でございますので質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

内谷重治議員の質問

○鈴木良雄議長　次に、順位６番、議席番号２番、内谷重治議員。

（内谷重治議員登壇）（拍手）

○２番　内谷重治議員　おはようございます。

私は、私たちの住むこの長井市が活力とやすらぎにあふれ、市民一人一人が輝くことのできる、そんな希望あふれる長井をつくるため、事前に通告してあります２点につきまして順次質問してまいりますので、市長並びに教育長におかれましては、明確かつ前向きな答弁をお願いするものであります。

まず、最初に長井市次世代ビジョン、長期計画といいますか長期構想でございますが、この検討について質問いたします。

ことし、長井市は、市政施行50周年という記念すべき年を迎えました。

折しも、現在の長井市は、財政再建の真っただ中であり、特にことしはまさに正念場といえる年であります。

このことは、私は、この長井市が新たな50年、新たな半世紀に向かって歩むための天が我々市民に与えた試練ではないかと思わずにはいられません。

もっとストレートな言い方をすれば、この50年間の長井市の繁栄を支えてきたものは、長井の先人たちの数々の偉業であり、経済成長期を差し引いても、長井市の中核となった旧長井町の指導者たちの将来を見据えた英断、そしてその意思を受け継いだ長井市になってからの歴代の市長を初め市当局、議会指導者たちの人々の努力のたまものであるというふうに思います。

現在の私たちは、その恩恵を享受してきたと同時に、その失政のつけも払わざるを得ないという状況ではないでしょうか。

この50年を歴史として振り返り、そういった記念事業といたしまして、一般的に市政の歩みなどの記念誌発行がございますが、今回、財政的な面からもこれを発刊しない目黒市長の方針

に私も賛成いたします。しかし、節目として、長井市のこの50年間の総括はしっかりとしなければならないと私は考えます。

この総括に当たる部分は、今年度を初年度とする第４次長井市総合計画、基本構想の長井市の概況のところで、長井の歩み、歴史として触れられてはいますが、新たな視点から再度分析し、今後のまちづくり生かす必要があるというふうに思います。

まちづくりの基本的な方向性と施策を明らかにすべく基本構想、基本計画が策定され、第４次長井市総合計画がスタートいたしましたが、私は、市政50周年を節目に、総合計画とは別の新たな長井の地域振興構想を次世代ビジョン、10年ではなく、せめて25年、四半世紀単位の長期計画として構築すべきではないか、今はそういうときではないかというふうに考えます。

そこで、まず最初に、この項の１）について質問いたします。このことは、ただいまの大道寺議員、また11日の蒲生光男議員の質問と重複いたしますけれども、現行の合併特例法が来年３月で失効いたしますが、長井市は次年度以降、市町村合併について、どのような方針で臨むのか市長にお伺いしたいと思います。

私が所属する議会内の会派フォーラム21では、昨年から合併を検討推進する一方で、次期行財政改革計画として長井市の自立計画を策定すべきと一貫して提案してまいりましたが、これから９カ月後の特例法期限まで、そろそろ方針を明確にすべき時期にきているのではないかと考えます。

現在の長井市の方向は、来年３月まで合併の何らかの手続きをとりたいとの方向で臨んできたと思いますが、来年４月以降も積極的に合併を検討していくのかどうか、市長の今後の方針、考えをお伺いするものであります。

次に、２）第４次長井市総合計画の最大の課題である“市民との協働”と“産業振興”について、具体的にどう取り組むのかお伺いするものであります。

長井市振興審議会の渡部秀一会長が第４次長井市総合計画の答申に当たりまして、そのあいさつ文の中に、現在の社会経済情勢から二つの大きなまちづくりの課題があると述べられております。一つは、これまでの『市民参加』の理念を一歩進めて、市民と行政が『協働』し、自立できるまちづくりをしなければならないということであり、もう一つは、産業の振興が最優先であり、そのためには『需要の拡大』と『雇用の創出』を考え方の根底として、農業・工業・商業といった従来の個別の枠にとらわれずに、さまざまな業種間の連携により新しい価値を『創造』しなければならないということを述べられております。

この二つの大きな命題に対し、総合計画ではいろいろな角度から検討され、計画に生かされているとは思いますが、具体的にどのように取り組んでいくのか、どのようなシナリオを描いているのか、お伺いするものであります。

『協働』のまちづくりについては、現在、ＮＰＯなどの市民活動が活発になされており、今後、行政パートナーもしくはサポーター制度等の取り組みによって、さらに進展するものと考えられますが、『産業の振興』については、製造業を中心とした市内企業の自主努力に加え、行政当局の地道ながらも的を得た支援体制により業績が向上していると思います。しかし、本格的な需要拡大と雇用創出を図るには、民間企業、商店街、農業者の方々の創意工夫、技術革新、ご努力に加え、やはり市行政の思い切った政策が必要と考えられますがいかがでしょうか。市長にお伺いするものであります。

次に、この質問項目の最後になります３）について質問いたします。

前の二つの質問は、これからの長井市の将来像を構築するために重要な要素であり、これら

によって長井の未来は導かれるべきものですが、冒頭に申し上げましたように、長井市の次の50年を見据えた次世代ビジョンとして、もう一つの地域振興構想が必要だと考えます。

簡単に言えば、長井は“将来何で食っていくのか”ということであります。

ご承知のとおり、長井市は、高速交通体系からはずれた山形県唯一の市であります。新幹線がないのはもちろんのこと、第３セクターの山形鉄道ですら思い切った発想の転換と努力がなければ、廃止せざるを得ない状況に追い込まれています。

高速道路も高規格道路もアクセスは当然できますが、長井市は通らない可能性が高いのではないでしょうか。

西置賜の中核都市としての拠点性も年々薄れてきていると思います。

悪い方向で考えると、想定以上の速度で人口も活力も失われる可能性を否定できないと思います。

今こそ、旧長井町が行ったような大英断、例えば、グンゼや現マルコン電子などの思い切った町予算を上回るお金を投資しての企業誘致などが挙げられると思いますけれども、そういったものが必要なのではないでしょうか。

今、どんな政策が必要なのか、今、なすべきことは何なのか、総合計画とは別の視点でのビジョンが必要不可欠と思います。

私は、次世代ビジョンは“人が集まるまちづくり”を基本コンセプトに検討すべきと考えます。

このコンセプトにつきましては、この一般質問で何回か提案させていただいておりますので詳細は申し上げませんが、この単純明快なコンセプトから、長井では何につなげていくのかが重要で、角界、各層、学識者、市民の皆様の英知を結集し、構築していくべきと考えます。市長の見解をお伺いするものであります。

次に、大きな項目２点目の『長井の心』を育む文教のまちづくりについて質問いたします。

文教のまちづくりには、学校教育に加え、生涯学習や文化交流活動などなどのそういった活動も含まれるわけですが、この項では、特に長井の未来を担う子供たちの育成について。長崎県の小学校６年生の事件を踏まえながら、『長井の心』をどのように育むのか。

また、子供たちが長井市のこれからの50年間のまちづくりを担う人材になることから、昨年12月定例議会で質問し、前向きに答弁をいただいている少年議会を早期に開催し、長井の次世代ビジョンの検討に生かすべきではないかという点から、教育長のご教示、答弁をお願いするものであります。

まず最初に、長井の未来を担う子供たちの育成についてお伺いいたします。

今月６月１日、長崎県佐世保市において小学校６年生の女子児童が同級生の女子児童をカッターナイフで殺害するという、思わず耳を疑うような大変凄惨な事件が起こってしましました。

頭をハンマーで殴られたような衝撃を受けたのは私だけではないと思います。

同じ長崎県で、昨年は中学１年生の男子生徒が幼稚園児を駐車場のビルの屋上から突き落として死なせるという驚くべき事件が起こったばかりであり、当然、長崎県下の小中学校では、『いのち』の教育を含め、再発防止の指導が徹底されたと考えられますが、結局、子供たちの心には全く届いていなかったといわざるを得ないと思います。

この普通の子に見える小学６年生の加害者は、被害者とは仲のよい友人でありながら、パソコンのホームページのチャット上で自分の容姿などをけなされ、傷ついて殺意を抱いたとのことですが、その心の闇はまだまだ解明できるものではありませんし、パソコンネット上とバトルロワイヤルというホラー小説のバーチャルな世

界と現実の世界の境がなくなった結果の事件といえるかもしれません。

一方で、長井市では、第４次長井市総合計画の中で、『長井の心』を育む文教のまちを目標にしておりますが、この長崎県の事件について、その主な原因とその再発防止のための学校教育のあり方はどうあるべきなのか、そして、“いのち”の教育と“長井の心”を育む教育をどのように進めるべきなのか、教育長の見解をご教示いただきたいと思います。

また、この事件発生後、山形新聞等で県内各市町村の教育委員会の対応についての記事が掲載されておりましたが、長井市は市内小中学校に対し、どのような指導を行ったのか、その対応について、あわせてお伺いするものであります。

次に、２）少年議会を早期に開催し、長井の次世代ビジョン検討に生かすべきではないかとう点についてお伺いいたします。

私は、昨年12月定例議会において、第４次長井市総合計画の目標年度ごろにちょうど成人し、あるいは社会人として活躍する現在の中学・高校生を議員として少年議会を開催してはどうかと。中学・高校生らの若い声とアイデアをまちづくりに生かすべきとの提案をしてまいりましたが、市長、教育長からは前向きに検討する旨の答弁をいただいたところです。

具体的な少年議員の選抜方法や少年議会の開催時期、方法については言及しませんでしたが、例えば、市内各中学・高校生徒会からの選抜やジュニアリーダーやボランティア団体等の中高生の参加を呼びかけていただき、少年議員たちがみずから長井の課題等を考え、把握し、その解決方法と今後の長井の将来像を話し合うことにより、そして、それを自分の所属する学校や団体にフィードバックすることにより、長井を愛し、誇りに思う『長井の心』を理解できるまたとない機会になるのではないかというふうに考えております。

また、市政50周年を迎えた長井市の次の50年を担い、まちづくりの中核となるべき少年たちの若い声やアイデアをぜひ次世代ビジョンとして生かすべきだと考えます。

最後になりますが、竹田教育長におかれましては、来月７月９日をもちまして、教育長を勇退されると聞き及んでおります。

平成10年７月から６年間、子供たちの健全育成に全力を傾注され、長井市の教育行政の発展に多大なるご貢献を賜りましたこと、この場をおかりいたしまして厚く御礼申し上げます。

竹田先生のご尽力により、土曜ランドの大成功やジュニアリーダー長井組の活躍、高校ボランティアの活性化など、今の子供たちに最も大切な体験学習と、一番欠けていると思われる自主性をより向上させることができたのではないかと思っております。改めて感謝申し上げる次第でございます。

長井市の次の50年に夢と希望を持ち、まちづくりに情熱を傾ける若者が一人でも多くこの長井にとどまることを念願いたしまして、再度、竹田教育長からのご教示をお願い申し上げまして、私の壇上からの質問を終わります。

ご清聴、まことにありがとうございました。

（拍手）

○鈴木良雄議長　目黒栄樹市長。

○目黒栄樹市長　内谷議員のご質問というよりは、ご提案にお答えをしながら、私の意見も述べさせていただきたいと思います。

まず、市政50周年を節目として、四半世紀、25年ぐらい程度を見通したこの将来像を構築すべきではないかというご提案でありました。

私は、政治家というのは、それは当然あらなければいけないと、そう思っております。例えば、言葉で言えば、私は、日本はものづくりで生活をする、ものづくりで稼ぐ、これは工業製品だけではなくて農業もそうでありますし、も

のづくりで食っていって、そして食糧で世界に貢献するということを何度か申し上げたことがあります。

食糧が余っている国などというのは珍しいわけでありまして、世界は人口爆発でありますから、確かに少子高齢から日本は人口減になるといいながら、世界は50年後、あるいは30年後もそうでしょう、人口爆発、食糧が足りない、これに貢献できるのは、今、世界一の農業を持っている、一番おいしい果物をつくれるのは日本ですよね。肉だってそうだと思います。米だってそうだと思います。あらゆる意味で、この日本ほどすばらしい農産物をつくれるところはないわけですから。それをやはり世界にどう貢献していくかというようなところを考えればいいのではないかと、日本の進むべき道は。

そして、日本国内はチャンスが平等で、頑張った人が報われると、流した汗が報われると。それから年金、福祉、医療、こういったセーフティーネット、子育てもそうかもしれません。弱い皆さんに対して、社会的に、セーフティーネットがちゃんと保障されている社会、そして、平和で安全、安心な社会と、こういったものを目指すべきではないかと。言葉では私はそう思っております。

ただ、長井市の計画は、今のところは、この10年を超える計画はないわけでありまして、大いにやはりその辺のところは必要かどうかも、もっともっと議論しながら、しかし将来、どうあるべきかという基本的な長期構想、それから地域の計画、短期の実践ということがなければ、政治に携わる者はだめだというふうに思っておりますので、ご指摘のこの真意というかご提案については、私はそのとおりだと思いますが、長井市の将来構想を今やるかということは、もっとぜひ内谷議員を始め、皆さんと議論をしていかなければいけないと思います。

今はもう10年一昔というよりは、３年一昔、あるいはドッグイヤー、ワン年、１年一昔といわれるぐらい、技術革新等、非常に社会の情勢も変わってきているわけでありまして、やはりそういったことも踏まえていかなければいけないという意味では、なかなかやはり大いに議論をしなければいけない課題ではないかというふうに思っているところであります。

合併特例法の失効後、長井市は市町村にどのような方針で臨むのかということでありますが、これは議会の皆さんとも大いに議論しなければいけないと思います。私は、長い将来で、さっきの話であれば、50年というパターンで考えるならば、あるいは25年でも結構ですが、置賜が一つになるということが必要だと。やはり、この置賜が一つにつながるような合併は、私は追及すべきだというふうに思っております。そして、そういった方向を何度か申し上げたと思います。

それには、やはり第１位の米沢と、経済的に第２位の長井がしっかりと、あるいは三市であれば南陽も、この三つがまずある程度しっかりして、ほかの皆さんもちゃんと入ってこれるというようなところが必要でありますから、まず川西をつないで米沢とという９月の提案なり、あるいは南陽と米沢を超えるような第１段階としての合併というものは、今後も検討しなければいけないし、長期的に見れば、それは必要だと私は思います。

しかし、今、17年の３月までに各町議会で議決をすると、そして新法にも間に合うように18年までにやるという方向性が、この間の２月では、この四町ではできたわけでありますが、その後の選挙等で非常に難しくなったというご指摘、そのとおりだと思います。その場合には、ある意味、やはり大きな置賜につなげるという意欲は持ちながらも、まず自立をしていかなければ、ここはやはり厳しかろうと思うのです。特に合併をしないところは、合併をするところ

は国、県が支援し、特例債も使い、交付税も10年、これはできるかどうかわかりませんよ、しかしそういうメリットがあるわけです。これはもう、国、県の支援はやはり合併したところに向けられていくと思いますよ。それから特例債は使えなくなる。さっきのように交付税も短くなるということになれば、これはやはりここは厳しい時代を自立して乗り切るという意味では、自立の方に重点を置かざるを得ないのではないかと。もしも17年度３月までに合併できなければですね。というふうに私は思います。その場合には、やはりいろんな方法もあるわけですし、17年３月までに間に合わせようということですから、対等ということをやってまいりましたが、少し長期的になるというのならば、いろんな方法も考えなければいけないし、そして自立の中での行財政改革と、そして自立プランの中の最も基本だと思いますが、この行財政改革をちゃんとやっていけるかどうかというようなところもやはり考えていかなければいけないし、皆さんの税から、税と人件費の割合、長井は32億ぐらいあって、25億8,000万まで何とかこの行政改革で進めてきたわけでありますが、これがやはり半分しか税金がないようなところは、それなりに非常に厳しくなってくると思いますし、そういった皆さんと行政改革である程度一致しなければ、合併というのはなかなかかえって自分たちの行政改革の効果が分散してしまうということもあり得ると思いますから、そういった方面を考えながらやっていかなければいけない課題ではないかというふうに思っております。

次に、市民との協働でありますが、これは、これまでも地区長会を始めいろんな各種団体の皆さんと市民参加という面でやっていただきましたが、基本構想で明らかにされたように、市民との協働ということになりますと、従来、市がやってきた仕事でも、民間の皆さんでできるところはどんどん民間の皆さんにもしていただくと。そういうのが協働のさらに発展段階だと思いますから、ＮＰＯであるとか、志木市や太田市でやっている行政パートナー、サポーター等も含めて、やはり民間の皆さんでできることはできるだけ民間の皆さんにやっていただくと。行政がどうしてもしなければいけないところをしっかりとやっていくという方向にしなければいけないのではないかというふうに思います。

さらに、産業振興についてでありますが、私は何度も申し上げてまいりましたが、産業振興は規制を緩和していく、金融のある程度の支援が必要だと、２番目。３番目はやはり雇用対策ではないかと。それから４番目は、科学技術の振興、そして５番目に、社会基盤というふうに何度か申し上げてきたと思います。

規制緩和では、経済特区というのが一つありますし、この間も議論をしましたら、特区がある程度成功していけば、これは全国展開にしたいのだと、金子一義担当相は申しておりましたから、やはりそういった方向にいくのであれば、特区も前進するのではないかと。幼保の一元化であるとか、他産業への参入であるとか、いろんな面で進んでおりますから、規制緩和等に長井市も積極的に取り組んでいくと。

金融支援は、きめ細かな金融支援でありますね。国でいえば不良債権だと思いますけれども、不良債権も決して既存の銀行いじめ、信用組合やあれにならないように、この間もある金融機関の皆さんと、厳しい状況をお聞きしましたけれども。

それから科学技術は、この置賜でいえば有機ＥＬなどというのは今上がっているはずであります。新たなやはり商品をつくっていく、新たな価値をつくっていく、あるいはマークさんがいわれるように、製品の中の、今は自動車だとかデジタル家電等で商品全体で売っているところもありますけれども、やはり日本の一番いいところは、どんな商品にも優秀な部品、中枢部

品があることだと、その中枢部品をしっかりと生産していけば、製品というのは部品の集合体でありますから、この科学技術の振興の中で中枢部品の開発というのは一番大事ではないかといわれていると思います。この対策は何度も申し上げましたが、官から民へ、ＮＰＯパートナー、それから社会基盤等については、これはご異論もあろうと思いますが、高速道路などというのはヨーロッパ並みに無料にした方がいいのではないでしょうかと、新幹線もできるだけ、もうミニ新幹線で山形県は成功しているわけでありますから、基幹的な部分はできたので、あれはやはりミニ新幹線をもっともっと考えるべきではないかと。高規格道路はぜひもっともっと進めるべきだと。高規格道路も通らないという、さっき一説ありましたけれども、高規格道路はぜひ通さなければいけないと思います。今泉のあの周辺は、私は通さなければいけないと思いますが、そういった社会基盤のこれから思い切った考え方を変えていくということが、単に公共投資をするというだけではなくて、必要なことではないかというふうに思っているところであります。

次世代のビジョンに人が集うまちづくりと、人が集まるまちづくりと、そのとおりだと思います。ぜひ、そういった人が集まるためには、具体的にどうしていくのかということをいろいろとご指導、ご享受をいただきたいと思っているところであります。

２番につきましては、教育長さんからお願いをしたいと思います。

○鈴木良雄議長　竹田辰雄教育長。

○竹田辰雄教育長　内谷議員のご質問にお答えしたいと思います。

佐世保市の小学校で大変凄惨な取り返しのつかない事件が起きまして、心を痛めているわけでございますが、ちょうど６月１日から全国学校安全強調旬間になっておりまして、その初日にああした事件が起きましたことを大変残念に思っているところでございます。

現在、事実関係の調査が進められているわけでありますし、また、この後、精神鑑定なども行われる予定だというふうに報道されておりますので、現段階でその原因であるとか、あるいは内容に立ち入った論評は差し控えたいと思います。

ただ、学校に対しては、対岸の火事視することなく、次の６項目にわたって見直しを図りながら、適切に対応するように指導をしてきたところでございます。

一つは、ナイフなどの安全な使い方や保管の仕方についての指導を行うこと。

それから二つ目は、パソコンネットなどを利用する際のルールやモラルについての指導を行うこと。

三つ目は、理科室であるとか、あるいは保健室であるとか、そういうところにある薬品等の安全管理を徹底すること。

それから四つ目には、自分の思いであるとか、あるいは感情であるとか、そういうものをうまく伝えるのが苦手で、うっせきしやすい子供の理解と人間関係の把握に努めること。

それから五つ目は、特別教室であるとか、あるいは体育館の用具室であるとか、盲点にならないように全教職員で目が行き届くような、そういう体制づくりを進めること。

これらについては、いずれも大事なことでありますが、どちらかというと、対処療法的な取り組みということになろうかと思います。

そこで６番目には、もっと根本的なと言ったらいいか、あるいは本質的なと言ったらいいか、そういうものとして、命を大切にすること、生きるということについての教育を学校教育の道徳の時間だけでなくて、あらゆる教育分野において、学年の発達段階に応じてその教育を適切に進めること。それをつけ加えて学校の方に指

導しているところでございます。

その最後の命を大切にする、生きるということについて、特に重視したいことは２項目ございます。

その第１点は、自尊感情を育てること。ちょっと難しい用語だと思いますけれども、自分のよさに気づき、自分にもよさがあり、そのことに気づいて自分が好きになり、自分を大事にする、そういう感情、あるいは他からも大事にされているという、そういう感情、そういう自尊感情を育てること。自尊感情を持っている子供は、ほかの人をも大事にするというふうに言われておりますので、こういった感情を育むことを大事に進めたいということであります。

それから二つ目は、命であるとか、あるいは生きるということについて、深く考えさせるいい読み物教材などもたくさんございます。例えば、吉野弘が書いた自分の娘にあてた「奈々子へ」という詩もございます。また、バスカーリヤの「葉っぱのフレディ」という作品もございます。お読みになったことがあろうかと思います。それから、長野県の子供病院に入院している子供たち、毎日死とか命と向き合って入院している子供たちが書いた「電池が切れるまで」という作品もございます。さらに中学生向きには、斉藤茂吉の「死にたもう母」という短歌の連作などもございます。

そういうものを通して、命であるとか、あるいは生きるということについて深く考え、子供の心にしみるような、あるいは響くような、そういう教育を進めていくということを大事にしていきたいというふうに思っております。

ただ、その命の教育については、学校教育だけでなくて、家庭教育あるいは社会においても家族との触れ合い、あるいは地域の方々との触れ合い、さらには自然との触れ合い、そういうものを通して取り組んでいくべき課題でもあろうというふうに思っているところでございます。

大きな２番目の「長井の心」を育む教育についてでございますが、若干抽象的になりますけれども、この基本的な考え方については、全教職員が一同に介する学校教育研修所の総会であるとか、あるいは市ＰＴＡ連合会の総会であるとか、それから分館連の総会であるとか、そういう総会の折に今年度に入ってから説明申し上げてきているところでございます。

まず、「長井の心」のとらえ方でありますが、「長井の心」とは何なのかということになるわけでありますが、いろんな考え方があろうかと思いますが、とりあえず次の５項目に押さえているところでございます。

一つは、平和を愛する心、それから二つ目は、感謝や思いやりに満ちた共生への心、三つ目は、人の道といいましょうか、倫理を大事にする心、それから四つ目は、郷土に誇りを持ち、郷土を愛する心、そして五つ目は、真摯の精神で創造する心、こういうふうにとらえてみているところでございます。

次に、その「長井の心」にどうやってアプローチしていくかということになるわけでありますが、これについても長沼孝三先生が幾つかのヒントを与えてくださっておりますので、それを参考にしながら進めていきたいというふうに思っております。

その一つは、豊かな自然とのかかわり体験、二つ目は、長井の歴史であるとか、文化であるとか、あるいは風俗習慣、そういうものとのかかわり体験、三つ目は、親、兄弟、地域の方々との温かい交わり、そして四つ目は、地域の課題とのかかわりでございます。そういうかかわり体験であるとか、あるいは交流体験であるとか、そういうことのできる機会や場を設定して、豊かに積んでいくことがこの「長井の心」に迫る一つのあり方なのではないかと、そんなふうに思っているところです。

それから３番目に、少年議会のことについて

でございますが、中高校生が自分たちの住んできるまちに興味・関心を持って、自分たちの目でそのよさ、長井のよさや課題をとらえて、それについて話し合うということは、長井の将来を担う人材育成という観点から言っても、大変有意義なことなのではないかと、そんなふうに思っております。

そこで、少年議会を長井市まちづくり青少年育成市民会議の事業に位置づけまして、11月中旬ごろをめどにして開催の準備を進めてまいりたいと、そんなふうに思っております。

少年議員の選出については、選挙ということもあるわけでございますが、初めてでございますので、内谷議員からご提案ありましたように、高校生ボランティアの代表、ジュニアリーダーの代表、さらには高校・中学からの推薦された生徒、そういうものをもって約20名程度で構成してみたいというふうに思っております。

さらに、11月の中旬のいわゆる本会議ということになるわけですが、その前に、二、三回会合を持ちまして議会の仕組み等についても事前指導を行いまして、本会議と同様に三つの常任委員会のグループに分けまして、本会議に向けた取り組みを進めてみたいと、そんなふうに思っているところでございます。

時間帯としては、学校の行事や部活動等のかかわりもありますので、一応土曜日の午後あたりを第１案として考えたいというふうに思っております。

会場としては、議場をお貸しいただきたいと、そんなふうに思っておりますので、その節は皆様のご協力をよろしくお願いしたいと思っております。

最後に、全く予期していなかったことでありますが、過分なねぎらいのお言葉をちょうだいいたしまして、これまでの皆様のご理解と温かいご指導に心からお礼を申し上げまして、答弁とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○鈴木良雄議長　内谷重治議員。

○２番　内谷重治議員　ただいまの市長並びに教育長のご答弁、本当にありがとうございました。

まず、幾つか再質問させていただきますが、まず最初、市長の方にお伺いします。

先ほど、大道寺議員の質問の中でも答えておられましたが、振興審議会の方からは、今回の総合計画については総花的で、特に産業振興とかそういった部分については具体性に欠けるのではないかというようなお話もあったと思うのです。ですから、何か特化した計画にすべきではないかというふうな、市長もおっしゃっていましたけれども、やはりこれからはいろいろ報道もされていますように、国会などでもある議員などですと、もう県は必要ないとか、そういうことも言っていまして、市と国政府と直接にやり取りすればいいみたいなことを言う人も出てきておりますけれども、いわゆる道州制も含めて、今回の市町村合併の特例法がある程度終わる段階では、国の方の政策も随分変わってくると思うのです。

やはり自立しなければいけないと国の方でも言っているわけですから、そういった場合に、ほかの市町村との自治体同士での競争になると思うのです。例えば、この周りで言えば、白鷹さんがまず「我々、合併しないで頑張るのだ」というふうに早々と宣言いたしましたけれども、あと高畠ですとか小国とか言っているわけですけれども、これから我々も当面は自主自立でいくのだというふうになると思います。

そういった場合に、総合計画では平成25年に２万9,500人という人口想定をしています。でも、これは今までと違って、かなり現実味を見据えた想定だなというふうに評価できる一方で、逆を言えば、何だ、総合計画をやっているけれど、結局、今までどおり人口減るということではないかと、ますます活力失われるのではない

かというふうに見る人の方が多いと思うのです。

まず、何といっても必要なのは、とにかくこれからどんどん人口が減っていって、周りも当然減るわけですけれども、やはり少なくとも長井としてはこれだけの商店街も抱えているわけですし、周りから人が集まるようなやはり政策をとらなければいけないと思うのです。それは近隣市町村だけではなくて、観光客も含めてなのですけれども。

人が集まるまちづくりということでいろいろ挙げさせていただきましたが、大きく三つあるのではないかと。一つは、よく言われるのは、交流人口をふやすと、これは観光も含めてですけれども、今の長井のいろんな地域資源、いっぱい優れたものはございますけれども、人を呼べるような資源があるのかと、いわゆるメインディッシュの部分、これはすごいと、これだけで人が呼べると、黙っていても人がいっぱい来ますよと、観光でも何でも。そういう資源は、残念ながら長井にはないと。かつてはあやめ公園というものがあったわけですけれども、もう今は随分周りに負けてしまったと。そういった場合に、例えば今回の構造改革特区でも、岩手県の遠野市では、どぶろく特区やりました。隣の飯豊町もそのようですけれども、あそこは民話のふるさとというメインディッシュがあるのです。それで、どぶろく特区をしたことにより、これは正確な数字はよくわからないのですが、前年比で５割観光客がふえていると、月12万5,000人来ているというふうに言っているようです。

ですから、長井の場合はあやめ公園、１カ月だけですけれども、それだけで頑張って観光協会含めて、行政でも頑張っていますが、やはり観光としても非常に弱いなという感じがするわけです。

あともう一つ、別の切り口として、市長がおっしゃった「長井はものづくりのまちでいくのだ」と、これは製造業だけではなくて、農業も含めてですが、これはもちろん正しいと私思います。ただ、雇用の創出には余りつながらないのではないかと。一時、中国に全部シフトして、産業の空洞化と言われましたが、大分それにも日本企業は企業努力で、オートメーション化とか人を余り使わないような形での対応をしてきて、随分、工業生産高がまた戻ってきたようですけれども、まず、中間人口、昔の言葉で言いますけれども、長井に働きに来る人、学びに来る人をふやすという考え方があるわけです。あともう一つは、定住人口と。定住人口は、いわゆるやり方いろいろあるのでしょうけれども、住環境に特化したまちをつくるとか、例えば長井に家を建てますと、いろんな面で優遇されますよ、あるいは土地も安いですよとか、例えばの話でそういうことがありますよね。あとは、何といってもレインボープランのまちですから、非常にエコシティといいますか、環境にすばらしいと、そういう政策をとっただけで人が集まる時代だと私は思うのです。あと、例えば、前に私が提案しましたけれども、日本版サンシティということで、医療、福祉に特化したまちをつくればいいのではないかと。都会に、いわゆる団塊の世代が定年になった後の第２の永住の地として、長井をぜひそういった受け入れのまちにすべきだと。その際必要なのは、福祉と医療を充実したまちだと。それによって、逆に雇用もふえるだろうと、そんなことで一度提案させていただきました。

あともう一つは、山形県で言っているようですけれども、子育てだったら山形県というような言葉のように、子育てするのだったら長井市だというような独特な政策をとれば、それはそれでまた人が集まる時代だと私は思うのです。ですから、そういうことを何らかの手を打たないと、もうどんどん２万9,500どころか、２万5,000も切ってしまう可能性があるのです。例

えば、隣の白鷹町がそういうような政策をとられたらどうだと。例えば、この間、長井教育会の総会で平県議もおっしゃっていましたけれども、フラワー長井線がもし廃止になったら、長井の高校生はどこに高校を通うのだと。米沢にも下宿しなければいけないのかと。バスの代替交通などほとんど無理ですから、当然、山形だってそうですし、そうしたら、これはしようがないから、仕事もろくな仕事ないし、この際だから米沢に移ろうとか、山形に移ろうとか、そういう可能性だってあるのではないかという話を例えばの話えをしておりましたけれども、とにかく、そんなことで、国の政策が変わったということは、とりもなおさず、隣の白鷹町とか、目先のことで言えば南陽市との競争なのです。ところが長井市はご承知のとおり、こういうふうに交通の便が非常に悪いわけですから、それでも人が集まれるような要素をぜひ検討していただきたいと、私は求めているのはそういったものなのです。ですから、市長のご見解をいろいろお伺いして、そのとおりだと思いますけれども、ぜひ、今ようやく再建から明るい兆しが見えてきたわけですけれども、そこの部分を本当に考えていかないと大変なのではないかなと思いますので、市長の方からもう一度、その点についてご答弁いただきたいと思います。

○**鈴木良雄議長**　目黒栄樹市長。

○**目黒栄樹市長**　お答えするというよりは、内谷議員のご卓見をお聞きしまして、平成25年、２万9,500、30年に２万2,000という予測もあるのですよね。２万2,800という。これはなかなか厳しいと思いますよ。これは長井市ばかりではありませんよ。そういう厳しい時代を見据えていかなければならないというのはそのとおりだと思います。

ただ、この観光等について、メインディッシュがないと、ないないづくしという発想はこれからはだめなのだろうと思います。やはり長井には久保の桜もあるではないかと、白つつじ、あやめ、そして水の萩もあって、これはやはり、それから黒獅子まつりをどう大きくしていくのかと。例えば、せっかくの殿の話ありましたから、僕はこの間思ったのですが、10万人ずつあそこにおいでになるわけでしょう、久保の桜に。別にホテルに泊まっていただかなくても、やはり民宿やれるではないかと。素泊まりで4,000円ぐらいで、夕食を足せば、都会の人には珍しいかもしれませんけれども、地元のものですよ、まさにあそこで直売でやっていますからね。5,000円前後で、というようなところをいろいろとやはり工夫していくと、プラスアルファーにしていくと、この民宿等もできると。もし、どぶろくでいくのなら、それも特区はもう取れると思いますよ。１番目は大変だけれども、２番目、３番目ということになれば、それは取れると思いますから、やはりそういうのも組み合わせながら、やはりあるものを生かしていくということがまず観光の基本なのではないかというふうに私は思っております。

日本版サンシティー、医療と福祉、特化してと。言葉はそうですが、しかし、それをじゃあ予算で裏打ちするということになると、この厳しい時代に、自立して生き延びようかという時代に、どれほどがやるのかということは大いに議論をしていかなければいけない。子育てをするなら山形県、子育てをするなら長井市というのも、それはキャッチフレーズとして少しずつまた充実させていかなければいけないということはそのとおりだと思いますけれども、それで特化すれば人が一遍に集まるなどというのは、それはそういうものではないだろう。やはり総合的に各種の施策を打ちながら、長井のよさを生かしていくと、そしてまだやっていないところ、民宿でも、どぶろく特区でも、いろんな面をやはり検討していくと。従来の例えば黒獅子まつりなどももっといいものに、もっとすてき

なものにするにはどうするかとか、長井の水まつりをもっと集えるようなものにするにはどうするかというようなところから、やはり発想をプラス思考でやっていかなければいけないのではないかというふうに私は思っているところであります。

○**鈴木良雄議長**　内谷重治議員。

○**２番　内谷重治議員**　市長の今の答弁、そのとおりなのです。何でもそうなのですけれども、例えば観光、あるものを生かさなければいけないと言いますけれども、私は、今の例えば観光の素材をやはり新たなものとしてリニューアルしなければいけないのです。文化をつくらなかったら人など来ないですよ。例えば、桜、１カ月もないですよね。それで民宿など成り立つわけはないではないですか。ほかのものといっぱい組み合わせなかったら。そういうふうに組み合わせるような、コーディネートする人がいないのです。ですから、結局、通年を通じて観光ですね、例えば産業とするのだったら、やはりそういったような取り組みをどこでするかと、やはり行政とか観光協会しかないのではないかと私は思うのです。例えば地場産センターとか、そういうものありますよ。ですから、その部分をやっていかないと、もう市民のご努力だけにすがっていたらやはりだめなのではないかなと私は思います。これは答弁要らないです。

例えば、子育てのことなども総合的だと、そのとおりだと思いますけれども、例えば福祉医療都市ということは、行政はお金要らないですよね。民間にさせればいいのです。ただ、行政はプロデュースすればいいのです。許認可も含めて、協力体制をとれば、やはり組み方いろいろあるのでしょうけれども、前にも言ったことありますが、福祉医療都市という、そういうコンセプトを持った新たなそういうまちをつくるというコンセプトを持った自治体はないと言っていますよね。大前研一なども言っていますけれども、ですからそういうのをいち早く長井は取り入れると。確かに今は早いですけれど、５年、10年後には必ずそういう波は来るというのは、今どんどんいろんな人が言い出していますね。そのときになって取り組んではだめなのです。その前にいち早く長井としてやっていかなければいけないのではないかと思いますので、そこをぜひ、答弁要りませんけれども、ご検討いただきたいと思います。

最後に、教育長の方に再度質問させていただきます。

少年議会、大変ありがとうございます。大変うれしく思います。ぜひ、私も傍聴したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それで、先日、長井南中学校で三者連携推進協議会というのがあるのですが、そこにジュニアリーダー長井組の代表の鈴木政輝さん、それから梅津拓彦さん、あと川村補佐とか村上会長などもいらしたのですけれども、その中で、文化生涯学習課の事業で、ジュニアリーダーの指導というようなことで、保育体験を半日ぐらいだったと思いますけれどもなさったと。その事業が非常によかったということで、鈴木政輝さんもそうですし、子育連の村上会長なども言っておられましたけれども、やはり幼稚園児を「お前、半日面倒見ろ」といったら大変ですよね。そうすると、もう子供の気持、幼児の気持を考えないと言うことを聞いてくれないわけですから、そうすると、相手の心、何を求めているのかなということを非常に身を持って体験できると。そして、相手を考えることによって自分のことも考えるといいますか、そんなことで、非常に効果ある学習だったなと思いますが、ジュニアリーダー長井組というのは、まだできてニ、三年なのですけれども、ぜひこういう活動を長井市内にいっぱい子供会があるわけですけれども、どんどん自主的につくれるような、やはりそれは我々保護者も頑張らなければいけな

いのですけれども、そういう体制をとってもらいたい。ですから、子供育成会の方、もう少し支援していただきたいなというふうに思っています。

先ほどのお話の中で、自尊感情を育てることが子供の心に響く教育なのだ、非常に大切なのだというふうにおっしゃっていまして、ジュニアリーダーの動きを見ていますと、本当に自主的にやっているのです。自分たちで考えて、自分たちで行動しているのです。その結果も全部自分たちが受け入れると、いいことも悪いことも。そういう姿勢が必要なのではないかなと。やはりどうしても我々は子供に対しては、あれしてはだめだ、これしてはだめだと、これはいいよとかというふうに、言葉だけで言いますけれども、そうではなくて、やはり失敗してもいいから体験させると、失敗してもいいから自分たちで自主性を尊重してやらせるという姿勢が必要だと思うのです。

この点について、再度、教育長の方からご見解をいただきたいというふうに思います。

○鈴木良雄議長　竹田辰雄教育長。

○竹田辰雄教育長　お答え申し上げたいと思います。

ただいまご紹介ございましたように、過日、南北中から約20名ほどの生徒さんにご参加をいただいて、生涯学習プラザを会場にして、１泊２日でジュニアリーダーのセミナーを開催したところでございます。

そこの指導に当たってくれたのが、ジュニアリーダー長井組の皆さんでございます。ジュニアリーダー長井組の皆さんが企画運営、自分たちの考え方で、自分たちの計画で全部それを進めてくださったということで、大変うれしく思っておりますし、その中で展開されたいわゆる保育体験であるとか、あるいは子供たちを対象にしたさまざまな遊びの工夫であるとか、そういったようなもの、大変子供たちにとっては勉強になったと、非常に楽しかったと、参加した南北中の生徒からはいずれもそういう声が寄せられております。

それで、この後もジュニアリーダー長井組と、それから参加した子供たちなどが中心になって、さまざまな企画会等を開催していきたいというふうに思っております。

そういう中で、自主性とか何かを育っていまして、行く行くは自分たちの手で運営できる子供会、子供が企画運営する、そして展開する子供会というふうな形にもっていきたい、そういう輪を広げていきたいと、そんなふうに将来構想を描きながら、現在進めているところでございます。以上です。

○鈴木良雄議長　内谷重治議員。

○２番　内谷重治議員　どうもありがとうございました。

もう時間で終わりますが、ぜひ、長井の心も含めて、子供たちの心に響くような教育を今後ともよろしくお願い申し上げまして終わります。ありがとうございました。

散　　会

○鈴木良雄議長　以上をもって、一般質問は全部終了いたしました。

本日は、これをもって散会いたします。ご協力ありがとうございました。

午後　０時００分　散会